

編集後記

新型コロナウイルスのオミクロン株パンデミックが長期化する中、北京オリンピック2022が開催されました。検疫法や競技ルール等の制約がある中、冬季大会史上最多の109種目で熱戦が繰り広げられ、数々のドラマが生まれました。ドラマの源は、「レジェンドとの出会い」と「夢の実現へ向けての挑戦」ではないでしょうか。「あの選手のようにになりたい！」という願いを日々の練習と工夫でめざすストイックな姿は、新たな憧れとなります。

NHK ウィンタースポーツテーマ曲「Fly High」の歌詞に「どこまでも高く高く飛べると見たことのない景色まで」の一節があります。これを体現した選手で最も印象に残ったのは、スノーボード男子ハーフパイプで金メダルを獲得した平野歩夢さんです。五輪初、軸を斜めに縦に3回転、横に4回転する「トリプルコーク ^{フォーティーン・フォーティ} 1 4 4 0」が決まった瞬間、実況アナウンサーは、「人類史上最高難度のルーチン（演技構成）が今、成功しました！」と叫びました。

平野選手が幼い頃から憧れたのは、スノーボード界のレジェンド、ショーン・ホワイト。トリノとバンクーバー五輪で2連覇を達成した絶対王者ですが、北京で現役引退を表明しました。ホワイト選手から祝福を受けた後の記者会見で平野選手は、「なかなか思い通りにいかないような日々が続く、自分にとっては大きすぎるチャレンジだったのかなと思ったが、自分に負けないで来られた。何かを諦めたことは一度もなかった。4年前に比べて、夢を追っていた小さい頃の気持ちに戻った。改めてチャレンジャーとして挑んだ立場だった。」（毎日新聞2月12日）と語りました。閉塞感漂う世界に未来の天窓を開くエアが吹きました。

冬季から連想してノルウェーの極地探検家アムンゼンの名言「準備十年、成功五分。」を挙げます。20代の若い選手でも幼少期から取り組めば、十年以上の準備期間があるからです。

身体能力に優れたレジェンドの技術は、^{テクニック}精神と共に次世代の才能へと受け継がれ、更なる高みが体感される。憧憬と挑戦で ^{しゅはり}守破離の営みが続く限り、人間と道具も進化していきます。

今号は、こども学科7件、スポーツ学科4件、合計11件の投稿がありました。

どうぞご高覧ご批正くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2022年3月吉日

編集委員長

馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は、基本的に人間科学部会に帰属します》
「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については、下記のWEBサイトをご覧ください。

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html>